

経営学分野の参照基準（案13）v2に対する修正意見

鈴木久敏

1. 経営学の定義

(1) 経営学の定義の1行目-9行目

経営学は、あらゆる「継続的事業体」の組織活動の企画・運営に関する科学的知識の体系である。あらゆる継続的事業体の中には、私企業のみならず国・地方自治体、学校、病院、NPO、家庭などが含まれる。また、組織活動の企画・運営に関する組織活動には、新しい事業の企画、事業体の管理、その成果の確認と改善、さらには新しい事業活動に向けた多角化、組織内における各職務の活動などがある。これらの諸活動を総体として経営と呼ぶ。

科学的知識経営学は、経営者、管理者、職能担当者などの暗黙知を人類共通の知識として形式知化したもの科学的知識である。この科学的知識を現実に機能させるためにはこの経営者等の暗黙知と科学的知識を結びつける必要があり、経営学の教育には暗黙知の伝達も含まれる。

p.5の下7行目-p.6の上1行目

例えば、第一に、継続的事業体の経営や行動を経済学的視点から説明を試みる経済学的アプローチがある。ドイツでは、経済学が国民経済の仕組みを研究する経済学（国民経済学）から区別されたと企業の経済を研究する経済学（私経済学）が主張区別されている。この私経済学は、常に国民経済学との関係を意識すると共に、学問的独立性を主張して経営経済学、すなわち、経済学的アプローチを常に重視したドイツ経営学として展開されている。アメリカでは、経済学的手法によって経営現象を分析するマネジリアル・エコノミクス、企業の諸制度の形成と過程を分析する新制度学派経済学、経営現象を委任関係で定式化して分析するエージェンシー理論などがある発展した。